

事業所名 放課後等デイサービスエリテ

支援プログラム (参考様式)

作成日 2025 年 3 月 28 日

法人 (事業所) 理念	エリテは、「選ばれた、選りすぐりの」という意味を持つラテン語の造語です。日々大変なことがあって、できないことや難しいことがあります。できないことが多くて無理をしてしまいがちですが、私たちが無理をせず「自分に正直に生きる」ことを率先して行っていくことで、生きやすい社会へと変わっていきけるようにという思いを込めて名付けました。一人一人が自分の個性を活かして、みんなで集い互いに助け合うことで、一人では見えなかった世界をみることができます。<頼ったり助けたりし合いながら、まだ見たことのない景色へと航路を進んでいけるように。今の自分だからこそ出会えたみんなと、みんなでその足跡を残したい。自分の思いや考えを超えて、思ってもみなかった扉をみんなで開けていきたい。>法人名のトレイル(航路)はそのような気持ちが入っています。				
支援方針	放課後等デイサービスエリテは、大きな特徴として、1回の通所につき1時間程度の個別の支援の時間を設けています。自分の感じていること・考えていることを深めたり、自分にあった学習内容・学習方法で学習を進めたりしています。また、自分の得意や苦手な理解を深め、自分にとって居心地の良い環境を整えられるように支援しています。一人一人の言葉や行動の陰に隠れてしまっている本当の気持ちや想いを探したり整理しながら「みんなとはちょっと違うかもしれないけれど、ありのままの自分で大丈夫、そんな自分もいいな」と思える場所を目指しています。				
サービス提供時間	平日 16 時 0 分から 20 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし	学校休業日 14 時 30 分から 20 時 30 分まで
支 援 内 容					
	健康・生活	<p>1. 健康状態のチェックと適切な対応 日々の様子を丁寧に観察し、子ども達の小さな変化に気付けるよう配慮します。特に、意思表示が難しい子ども達の特性や発達段階を踏まえ、細やかな対応を心がけます。</p> <p>2. 自分の心身の状態を知り、伝えられる力を育む 子ども達が自分の体調や気持ちを言葉で表現できるようサポートします。対話を通じて、心と体の変化に気づき、自分自身で心身の状態を伝える力を身につけることを目指します。</p> <p>3. 心身の健康を維持・改善するための柔軟な対応 自分にとって快適に過ごせる生活のペースについて子どもと支援者と話し合い、そのペースを大事にする事の重要性を一緒に考えます。一人一人に合った無理のない通所を大切に、心身の負担を軽減しながら健康維持と成長を促します。</p> <p>4. 快適な空間を整える 子ども達一人一人が心地よく過ごせる環境をつくるために、何が必要かを一緒に考えます。また、個々に合わせた快適な空間づくりの支援を行い、自分自身で居心地の良い環境を整える力を育みます。</p>			
	運動・感覚	<p>1. 自分の動作や感覚への気付きを支える 生活の動作の中で自分の体の動かし方の特徴に気付けるようにサポートします。 ・感覚把握 生活環境の中で視覚・聴覚など五感の過敏さや苦手に気付けるように促します。 自分のバランス感覚や空間認識について理解することで、運動の調整や姿勢の維持につなげます。 ・力加減 例えば、普段の力加減が客観的にみると強い場合も、自分では気付いていないことが多いです。その事実を伝え、力加減を調整できるようサポートします。 ・リラックス 緊張等によって、無意識に身体に力が入ることがあります。緊張をほぐし、疲労を蓄積させないためにも力を抜くことを覚えていけるよう、声をかけていきます。</p> <p>2. 手先の器用さと創造力を育む ジエンガやカード遊びなどのゲームや工作などの創作活動といった個々の子ども達の興味に即した活動を通して自然に指先の力のコントロールを育みます。また、創作活動では、子どもたちが持つ世界観を楽しく表現できるようサポートし、自信や創造力を育みます。</p> <p>3. 自分の身体の動きや感覚に合った環境で集中力を高める 一人一人に合った環境を整えることで、安心して活動に取り組めるようになります。姿勢の保ち方、感覚の過敏さや苦手に合わせて、最も集中しやすい環境を子ども達自身が見つけられるよう支援します。</p>			

本人支援	認知・行動	<p>1. 言葉の理解度の正確な把握 子ども達が表面的には理解しているように見えても理解できていなかったり、反対に理解をしていますがそのように見えないことがあります。言葉の端々から、どのような理解をしているかを確認し、どこにつまづきがあるのかを把握していきます。</p> <p>2. 感情の認識と言語化 子ども達は予定とは違う事象が起きた際に、困惑してしまうことがあります。また、物事に対して限定的で硬いルールを持っているため、想定したルールと違う事象が起きた際に困惑し、その原因がわからず、衝撃を受けたりパニックになったりすることがあります。そして、そのような時の自分自身の感情に対しても気付かずにあります。支援者が本人の気持ちを言葉にして伝えることで、自分の感情に気付く、その時の自分の感情に最も適した言葉を子ども達自身が見つけられるように支援します。様々なことを経験していく中で、その都度新たなルールを学習し、いろいろな場面に対応できるようにサポートしていきます。</p> <p>3. ストレスや疲労への気付き 通常気にならない刺激も、その刺激への過敏さがあることで心身の不調が起きてしまいます。日常生活でその刺激にさらされることで不調が常態化し、疲労や体の不調・ストレスに気付かないことがあります。また、不調によって起こる事実（足が動かないなど）は認識できるものの、（痛みで足が動かないなどといった）行動を制限される物理的要因がない限り、休養や受診などの手段を取れずに放置してしまいます。不調の原因を探るという発想がないため、周囲の人にどのように調子が悪いのか尋ねられ、自身の状態を言葉にすることで、初めて自身の状態に気付くことがあります。ストレスや疲労に気付くために、自身の状態を言葉にしていけるように声をかけていきます。また、「頑張らないと怒られてしまう」という思い込みや刷り込みによって、自分に厳しくしてしまうことがあります。限界を超えたことによって極度の疲労やストレスが起こる場合があるため、自分にとってどこまでやると無理をしている状態になるのかを見極めるサポートをします。</p> <p>4. 課題の整理と優先順位付け 様々な課題を目の前にしたとき、自分の限界点がわからず、手の抜き方やセーブの仕方が見極められないことがあります。できないことは努力不足と思うような社会の風潮もあり、頑張らない自分がいけないと責め、自分を責めようという発想がないままに日々を過ごしていることがあります。手を抜くためには、何を求められているかを理解し、全体像を把握した上で、注力すべき点とそうでない点を見極める能力が不可欠になります。しかし、求められていることや全体像を把握することに難しさがあったり、最終的な到達点が見えていたとしても、どのような工程を踏めばよいかわからないことがあります。求められている事柄や必要な作業範囲、大事な点とそうではない点を確認し、自ら様々な課題に取り組み、多くの事柄を経験していくことで、対応力を高められるようにサポートします。</p> <p>5. 個々の特性に応じた学習方法によるサポート 支援者との1対1の時間で、子ども一人一人が持つ課題に対して、それぞれの特性に合った学習方法を提案・支援します。自分に合った学び方を見つけ、楽しく学習を進められるようサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の概念理解 分数や小数のような基準値の1が変わる数量概念の理解は、具体物や丁寧な説明を通してイメージを持ち、量感をとらえることができるように繰り返し類似問題に取り組みます。概念理解とは分けて、数字を使った計算方法を習得します。 ・様々な漢字の学習方法 漢字を学習する際にどこにつまづきがあるか把握します。形をとらえ、細部に注意を向けること、意味や訓読み・音読みなどの情報整理、記憶の出し入れ、指先を動かす書字等の要素を確認します。 *学習例 漢字の意味・形・読みの3つの情報をカード等を使って整理、部首などの形に目を向けて記憶、形をとらえる練習、指先の動きを取り入れた遊び等
	言語コミュニケーション	<p>1. 安心して話せる環境の提供 子どもが話したい内容に応じて適切な環境を用意し、リラックスしてスムーズにコミュニケーションができるよう支援します。</p> <p>2. 多様な話題から子どものことを把握 日常生活の出来事やお出かけの思い出、学習の進み具合、普段の様子などさまざまな話題について話す機会を作ります。日々感じていることや考えていることを、自分から言葉にするのが難しいことも多いです。日常の会話の中から、子ども達がどのように考え、物事を捉えているかを把握していきます。独自のルールに基づいたルーティンで日常生活を送っている中いつも通りにいかないことがあった際に、対処の仕方がわからず、固まってしまうことがあります。その時に何に戸惑ったのかを聞き、その都度状況を振り返り、子ども自身が困っていることに自ら気付いていけるように支援します。そのことで物事には様々なシチュエーションがあることを知り、柔軟に対応できることを増やしていけるように取り組みます。</p> <p>3. 語彙の習得・柔軟な言葉のネットワークの構築 ゲームや場面遊びのような好きな活動の中では、会話も弾み、より伝えたいという気持ちが強くなります。楽しく遊ぶ活動を通して、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりしたことを自由に話し合い、自然に語彙を増やすことを目指します。一人一人の小さな表情の変化や吹きを拾いながら、言語化が難しい感情や考えにピッタリの言葉を見つけられるように対話を行います。対話を通じて自分の気持ちや考えを誤解なく伝えられるよう、適切に言語化するサポートを行います。また、言葉の意味を厳密に捉え、言葉のカテゴリーの範囲が狭く硬いため、読んだり聞いたりした言葉から正しく内容をイメージすることが難しい場合があります。丁寧に話し合ったりお互いのイメージを絵などで伝え合うことで語彙を広げ、理解し伝え合うための言葉のネットワークに柔軟性を持たせることを目指します。</p> <p>4. 相手の意図や感情を理解 相手が何を求めているかを理解したい、という気持ちが強くあるにもかかわらず、相手が意図していることの把握が難しいことがあります。経験した複数の事柄から、起こるであろう事象を予想することが難しいため、未経験のことをイメージすることに難しさがあります。似たような経験にあてはめたり、経験したことをもとに状況を整理してすることで、相手の意図していることを把握するお手伝いをします。また、状況によって異なる相手の非言語メッセージや感情を読み取ることに苦手さがあるため、以前に経験したことをもとに、相手の非言語メッセージや感情を読み取る努力をします。しかしコミュニケーションでは、今までの経験ではなくその状況に合わせた読み取りができる力が重要になります。その力をどれだけ臨機応変に発揮できているか把握するためには、ご家庭や学校での様子を伺うことが不可欠です。子どもや保護者双方と丁寧なコミュニケーションを心がけ、必要に応じて信頼できる第三者に通訳的な役割をしてもらうことなどを通して、子ども達が生活場面で円滑なコミュニケーションを取れるようになることを目指します。</p>

	人間関係社会性	<p>1.信頼関係を基盤にした協同遊びへの橋渡し 一人一人に担当の支援員が寄り添い、信頼関係を形成できるよう努めます。担当支援員を「安全基地」とし、安心して周囲と交流の幅を広げられるよう支援します。子どもの意思を尊重しつつ、信頼できる支援員を通して、他の子どもと交流できるように、協同遊びへと橋渡しします。</p> <p>2.楽しく会話ができる場の提供、活動を通じた交流の促進 学校を含む日常生活の出来事や興味のあることについて、同じ時間帯の子どもたちや支援者と楽しく話せるよう支援します。対話を通じて、円滑なコミュニケーション力を育みます。工作などの好きな活動を通じてコミュニケーションを取りやすい環境を整えます。支援者が積極的に声をかけ、良好な関係を築くサポートを行います。 また、必要以上のコミュニケーションを求めないタイプの子どものペースや気持ちも尊重しながら、活動を進めていきます。</p> <p>3.周囲の感情の影響と感情のコントロール 身近な人達の喜怒哀楽の感情の波が、子ども達自身の感情にも大きな影響を与えます。自分に身近な人の感情の波が、自分自身にどのような影響を起こすのか知っていることで、自分の感情のコントロールがしやすくなります。また、影響を受けそうな時に事前に対処することで、お互いの感情が干渉し合わなくなり、安定した人間関係を築きやすくなります。対話を通して自分自身への理解を促しながら、情動の調整ができるようサポートし、より良い対人関係を築く力を育みます。</p> <p>4.ありのままにいられる場所で自分自身を取り戻す 日常生活の大半を占める学校で、上手に人間関係が築けずに、自信を無くしてしまう子どもも多くいます。個性を隠し、なんとなく周りに溶け込んでいるかのように見せかけることで、人間関係を築こうと頑張り続け、疲弊してしまっています。そのような人達が集まるエリテでは、ありのままの自分であることや、その良さを受け入れてもらえる場が自然と成り立っています。ありのままの自分の良さを知ってもらえる場で、自分自身を取り戻せる機会を提供します。</p>		
	家族支援	<p>1. 気持ちや考えの整理と橋渡し 子ども達の言葉にはできない気持ちや考えを丁寧に聞き取り、対話を通して整理することで、自分の想いを保護者の方に伝えるお手伝いをします。また、自分では保護者の方に伝えづらいこともエリテでは素直に伝えられることがあります。そのような想いを橋渡しすることで、親子間のコミュニケーションのずれ違いを和らげ、より良い関係を築くお手伝いをします。</p> <p>2. 保護者の心のサポート 保護者の方が育児に行き詰まった時や、疲れ切ってしまった時に、相談の場を提供し、お話を聞きます。支援員が寄り添い、気持ちを整理するお手伝いをすることで、安心して子育てができるよう支援します。</p>	移行支援	<p>1. お子さんの特性や支援内容の伝達 必要に応じて、お子さんの特性や配慮すべき点、エリテでの支援内容を関係機関や新しい環境に伝えることができます。これにより、スムーズな移行をサポートします。</p> <p>2. 現状の対応 現時点では移行支援の希望がないため、実施していません。必要が生じた際には、柔軟に対応していきます。</p>
	地域支援・地域連携	<p>1. 転居時における特性や支援内容の情報提供 お子さんが引っ越しをする際に、その特性や配慮すべき点、エリテでの支援内容をまとめて情報提供し、新しい環境でのスムーズな適応をサポートします。</p> <p>2. 保護者との連携と情報共有 学校や他施設に情報を伝えることが難しい保護者を支援し、一緒にお話をする機会を設けることで、コミュニケーションを円滑に進められるようサポートします。</p> <p>3. 学校との連携による多面的支援 学校と連携を取り、子どものさまざまな側面を共有することで、より包括的な支援が可能となります。これにより、多面的な支援を通して子どもを支えることができます。</p> <p>4. 必要な機関への紹介・連携 場合に応じて、他の機関やスクールソーシャルワーカーに繋げることで、子どもの支援体制をより強化し、必要なサポートを提供します。</p> <p>5. 地域生活での適切な行動の習得 事業所での様子だけでなく地域生活で見せる本人の様子を共有することで、実際の生活の場面に即した支援を行います。地域住民や店舗の方に、特性や接し方を伝えることで、一緒に地域で見守り、関わっていただけるよう取り組みます。本人がその場の状況に合わせて適切な行動を取れるようにサポートします。</p>	職員の質の向上	<p>1. 外部研修への参加 職員は外部ゼミでの研修、外部での事例検討会等に個々に参加し、最新の知識やスキルを習得しています。これにより、専門性の高い支援を提供できるよう努めています。</p> <p>2. 情報共有と協力 学び得た知識や経験は職員間で情報共有し、チーム全体での成長を促進しています。これにより、一貫した質の高い支援が提供できるようサポートしています。</p> <p>3. 関連資格の取得 職員は関連資格の取得を目指して積極的に学び続け、支援の質をさらに向上させています。</p>
	主な行事等	季節に応じた活動（夏 スーパーボールすくい 冬 クリスマス等） 避難訓練		